

ごあいさつ

学祖花蹊が神田猿楽町で跡見女学校を開設して以来、本年度で140周年、大学開学50周年という節目の年を迎え、秋に盛大に記念式典が開催されました。また花蹊記念資料館は、平成7(1995)年11月に開館して以来、20年目という年でもあります。

当資料館は、この間、資料の収集・整理保管・調査研究・展示・普及教育など多岐にわたる業務を遂行して参りました。この一年について申し上げますと、昨年3月～6月にかけて、50周年特別展示I「学祖 跡見花蹊の世界」を皮切りに、同II「跡見花蹊の教育―画―(画手本の世界)」、同III「花蹊の芸術性(画手本の世界)」、同IV「花蹊の跡見流(書の世界)」の特別展示を開催し、多くの方々に参観していただきました。年度後半には、第9回廉書会OG展(書)、本学博物館実習生による模擬展示、さらに花蹊・玉枝・李子など跡見家の女性達にスポットをあてた「跡見家の女性たち教育・画・書」を企画しました。これらの作品を公開するにあたり、参観者から見てできるだけ分かりやすく親しみやすい展示空間になるようキャプションにも工夫を凝らすと同時に、本学HPにもその全容が把握できるよう多くの図版を活用しビジュアルな紹介に努めました。

文京キャンパス2号館6階(スケルトン)では当時の貴重な写真や書画などをパネル展示し、跡見中高の1階ギャラリーでは前後期2回に分けて資料館収蔵品を展示しました。生徒や学生による通常の見学はもちろんのこと、大学のオープンキャンパスや中高の文化祭などの行事にも対応しています。

さて本紀要について少しお話ししましょう。開学140周年と50周年とを記念して、高橋六二名誉教授による「地図でたどる跡見女学校」と植田恭代准教授による「跡見花蹊筆和歌扇面と昭憲皇太后」の二つの玉稿を掲載しました。前者は開学前後から猿楽町～柳町～大塚に至る移転資料を地図とともに紹介したものです。後者は、花蹊の和歌扇面をもとに、女子教育の黎明期を支える昭憲皇太后と敬愛の念をもって接した花蹊との親交について論じたものです。それぞれ本学園の草創期における一場面を活写したもので大変興味深い内容となっています。また村田宏教授には学芸員課程主任教授という立場から「27年度博物館実習について」を執筆していただきました。このほか、年間の活動報告と企画展報告を掲載しております。この場をお借りして、ご協力いただいた三氏に対して厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、本学資料館が収集・保管・展示などの業務を確実に遂行し、本学関係者はもとより、一般来場者の方々にも快く参観していただけるよう日々努力していきたくと念じております。

平成28年3月吉日

跡見学園女子大学花蹊記念資料館
跡見学園女子大学学芸員課程